

2021年度入試 合格体験記

農学部 農学科

水嶋 凜也

(Ⅱコース・志木市立志木第二中学校)

「自分に合った勉強方法で」

私は東京農業大学に合格するために定期テストに最も力を入れてきました。理由として農大に進学するには高い評定が必要であり、評定はほぼ定期テストの点数で決まるからです。高い点数を取るためには普段の勉強が大切です。普段の勉強ではノートや教科書などを極力振り返らないようにしていました。問題を解く際に分からなくなったり、思い出せなかったりする時にノートなどで振り返ることは大切です。しかしながら振り返る頻度が高くなるほど定着力は落ちていきます。だから私はまず10分は何も見ないで問題を解くようにしていました。次に振り返った問題とノートの問題の範囲に印をつけ、1からその範囲を勉強し直しました。結果的に繰り返し勉強し直すことで抜け落ちている部分がなくなり、忘れにくくなりました。

また私は勉強をする際に必ず目標と目標を達成した時の報酬を定めて勉強していました。目標と報酬を決めることで長い時間勉強するための集中力とモチベーションが生まれるからです。さらに集中力を保つために必ず得意科目から始めるようにしていました。苦手な科目から勉強を始めてしまうとつまづく問題が多発し、やる気が失せ、集中出来なくなってしまうからです。勉強は毎日やってこそ結果が出るものです。毎日続けて勉強するためにも自分に合ったやり方を見つけてみてください。

最後に、アドバンスとして定期テストと評定では学年上位を目指してください。農大の枠には限りがあります。志望学科の枠内に必ず入りたいのなら学年上位の成績を取ることが最も確実です。そのためにも普段から勉強する習慣をつけておくと良いと思います。頑張ってください。

応用生物学部 農芸化学科

片寄 友暉

(Ⅱコース・坂戸市立坂戸中学校)

「自分と向き合おう」

自身の目標を持って勉強することで、日々の学習の質は大きく向上すると私は思います。まずは、興味のある分野について詳しく調べてみることをお勧めします。そこから進路決定につながるはずです。

日々の勉強で意識してきたことは一日の勉強をした後その日に行った内容を見返し、次の日に取り組む場所を見つける時間を作ることです。この時間を作ることで、次にやらなければならないことが明確になり効率よく次の日の勉強を始められることができます。また、学習計画を立て勉強する人が多いと思いますが、必ず予備日を含めて計画を立ててください。学校からの課題が多く計画が崩れたときにやる気がなくなってしまうのを防ぐために私はいつもゆとりをもって計画を立てました。

面接と小論文については、まず先輩たちの受験報告書を読んでイメージをつかんでみてください。面接では過去に聞かれた質問に対しての答えをノートにまとめ、自分なりの答えを作って準備してください。そのほかにも自分の志望分野に関連するニュース等を調べ、自分の考えを言葉で説明できるようにしておきましょう。小論文の練習では時間を計り過去問を解くことは重要ですが、志望学科の研究内容についての出題が多いのでまとめておくと良いと思います。

誰でも受験本番が近づくと不安になります。勉強中もあれもこれもと考え込んでしまうかもしれませんが自分がやりたいことが見つかっていれば最後まで必ず努力できると思います。応援しています！

2021年度入試 合格体験記

応用生物学部 醸造科学科

武山 隼士
(IIコース・ふじみ野市立大井東中学校)

『東京農業大学合格』に向けた『方法行動対策要約』

併設高校推薦入試に向けてすべきこと、僕の反省点を記していきます。まず、9月の実力判定試験に全力で取り組んでください。それにより、自分の苦手な分野を明確に知ることができ、10月の校内選考試験を落ち着いて受けることが出来ます。また、英語が苦手な僕は、毎日電車やバスの中で英単語を覚えることに徹しました。わかる単語が増えると、当然ですが、英文がどんどん読めるようになりました。面接、小論文対策としては、自分が将来やりたいこと、大学で学びたいことをはっきりと具体的に思い描く事が大切です。そのために、1、2年次にある学びたいことに関連する本を読む課題を上手に活用してください。

次に反省点です。僕は、面接、小論文対策は2、3週間前ほどからすればいいかという甘い考えで過ごしていました。そこから本を読み、知識を増やそうとしましたが、自信に繋がるほどの知識が身に付かずもなく、不安なまま受験日を迎えてしまいました。結果としては合格しましたが、今年度の小論文のテーマは、新型コロナウイルスの影響もあってか少し易しかったのではないかと感じました。例年のテーマであれば、合格できたかは、正直自信がありません。早いうちから面接、小論文対策をしていれば、不安になることもなく落ち着いて受けることができたはずで。

最後に、一番大切なことは体調を崩さないことだと思います。協力、応援してくれている先生方、家族のためにも、最後までやりきってください。

生命科学部 分子生命化学科

酒井 尚大
(一貫コース・農大三高付属中)

「自分に合った効率的な勉強法」

私が受験において重要だと考えることは2つあります。1つ目は、自分に合った勉強を効率的に毎日継続する行うことだと考えています。今日明日で一生懸命頑張って成績を上げることは難しいことだと思います。そのため日々学んだこと、教わったことを1つ1つ地道に積み上げることが一番の近道です。そのため自分の理解度に合った勉強を焦らず、バランスよく日々継続して行うことも必要になります。そして、自分が集中を継続できる環境を整え、少しの時間を効率的に使うことが鍵になってくると思います。

2つ目は、勉強に対するモチベーションを継続してできることだと考えています。勉強をするにあたって目標を決めることが重要です。自分のやりたいことを明確に定め、行きたい大学などの大きな目標を決めることが最大のモチベーションに繋がります。その後には今日はこの教科をやろう、今日はこの単元を終わらせよう、などの小さな目標を決めてモチベーションをキープしていました。自分の中でオン・オフをしっかりし、適度な休憩をしながら、集中できる状態にして勉強していました。

指定校・併設大推薦は3年間の評定が必要になるので1年次から継続して勉強することが大切です。推薦では基本的に小論文・面接があるのでその対策は勉強の合間に効率的に行いましょう。受験は、自立し、自分を見つめ直し、成長できるチャンスだと思います。後悔のないように全力で取り組んでください。応援しています！

2021年度入試 合格体験記

地域環境科学部 森林総合科学科

日高 太一

(Ⅱコース・上尾市立大石中学校)

「小論文と面接を疎かにしないで」

農大を受験するという方は、農大に行ったら何をやりたいのか、どんな事を学びたいのかを明確に考えておいた方が良いでしょう。そして欲を言えば、それを他人に説明できるようになっておくとうれしいと思います。理由は農大の小論文・面接の試験で重要になってくるからです。「小論文と面接」この2つの試験は、おそらくほとんどの人が、初めて経験する事だと思います。したがって農大の試験までに慣れておく必要があります。小論文と面接の試験では、赤の他人である農大の試験官に「自分はあなたの大学で絶対にこれが学びたい」という意志を伝えなければいけません。上辺だけの薄っぺらな内容では試験官に簡単に嘘だと見抜かれてしまいます。

だからこそ早いうちから、学びたい事や、やりたい事を考えておき、明確な目標を作っておきましょう。そして、その目標作りのために必要な資料などを読んでおきましょう。僕は、「森林の災害防止について学びたい」という目標だったので、ネットで、森林災害に関する記事を読んだりしていました。また、読んだ物の内容を覚えるだけでなく、しっかりと自分の口で説明できるようにしておくとうれしいです。面接は特に得意不得意が大きく出る試験です。何も練習をしないで、不得意なまま本番に臨めば、頭の中は真っ白で何も言えずに終わってしまうか、一言二言言って何も話が広がらずに終わってしまうでしょう。そうならないためにも、早めに自分の実力を知り、担任の先生などと練習することが必要です。ここまで小論文と面接に関してアドバイスを書いて来ましたが、もちろん勉強も大切です。しかし科目ごとの試験を終えた先には小論文と面接がある事を忘れないでください。皆さんが第一志望の学科に合格出来ることを祈っています。

地域環境科学部 造園科学科

石井大空

(Ⅱコース・鴻巣市立鴻巣中学校)

「水滴石穿」

私の成績は二年の二学期までは農大の推薦基準の評定にギリギリ足りている程度でした。当時の私はこの大学に行きたいという明確な希望は無く、なんとなく大学に行ければいいなと考えていました。ですが、指定校や農大の推薦基準の評定を見たときこのままでは行ける大学が無いことに気づき、ようやく今まで自分がどれだけ何もしてこなかったか実感しました。

志望校を決めている時間も惜しかったので、兎にも角にも勉強して学力と評定を上げていき、選択肢を増やすべきだと考え行動しました。今まで参加してなかった講習に参加したり、日々の小テストにも力を入れたりして学力を付けるだけでなく勉強する習慣と集中力、自信を付けていきました。その甲斐もあって、徐々に成績も伸び、評定も上がって大学の選択肢も増えたので、次に自分が何を学びたいのかを真剣に詮索しました。ある日、農大のホームページを調べて造園科学科のページを見たとき自分が学びたいことはこれだと直感的にピンときたのを今でも覚えています。造園について調べていくと過去に自分が好きで、興味があったことと結びつき造園科学科を強く志望するようになりました。目標が決まったので、そこからはひたすら努力を積み重ねるだけでした。面接練習には特に力を入れて何度も先生に時間を頂き練習しました。おかげで自信を持って面接に臨むことができ無事合格することができました。先生と家族、友達には本当に感謝しています。不安なことばかりだと思いますが自分を信じてください。

2021年度入試 合格体験記

国際食料情報学部 国際食農科学科

石井 慧

(Ⅱコース・さいたま市立常盤中学校)

「基本を大切に」

高校1・2年から、三年になるまでもそうでしたが、受験で大切だと思うのは「基本を大切に」することだと思います。進路を決定した高校3年の時点では古典や英語の単語が身につけておらず、実力が足りていない状態でした。勉強はまずそれらを身に付けることから始めなければなりません。単語は行き帰りの電車内など、隙間時間を使って覚えました。これは受験勉強時のみならず、普段の小テストや定期テスト対策にもなります。学校から配布されている英文法問題集も繰り返し何度もこなしました。世界史においては、大まかな流れを『一度読んだら絶対に忘れない世界史の教科書』という本で掴んでから、授業プリントで細かい知識を覚えていきました。その甲斐あって実力判定・校内選考試験も無事に突破することができました(余談ですが、勉強は実力判定テストに照準を合わせて行い、足りなかったところを校内選考試験までに補っておくことをお勧めします)。

推薦試験は、小論文と面接です。対策の上で重要なのは、①情報収集と②徹底練習の2つではないでしょうか?自分の行きたい学部学科のおおよその検討をつけたら、すぐにでも対策を始めると良いかと思います。大学のパンフレットや日経新聞や日本食糧新聞、日本農業新聞などの新聞を読んで、気になった記事はスクラップにしておく、などです。また、複数の先生方に小論文の添削や面接練習をお願いして、やって頂きましょう。

最後になりましたが、絶対に最後まで諦めず、全力を尽くしてください。応援しています!ファイト!!

国際食料情報学部 食料環境経済学科

雪吹 洸輔

(Ⅲコース・熊谷市立熊谷東中学校)

「引き出しを増やすために」

私が大学について考え始めたのは高校二年生の九月頃、先輩方が実力判定テストを受けていた事がきっかけで進路について考えるようになりました。部活動も行ってた為、その時はまだ実感はなく、志望校を本格的に決定したのは高校三年生になってからです。

農大進学を目指す人は、九月に行われる実力判定テストと十月に行われる校内選考試験を受けます。本番はもちろん校内選考試験ですが、私は実力判定テストに標準を合わせて勉強しておく方がいいと思います。校内選考試験に向けて勉強しなければならない所が明確になり、苦手な所を勉強できるからです。

農大の試験の対策として、小論文では、過去の問題を何度も解いてみることです。たくさん小論文を解くことで答え方の引き出しが増えていきます。面接では、友達同士で質問し合うことです。特に同じ学科学部の人などとし合うとよりいいと思います。そして全てに共通して大事なものは、学部学科についての知識をたくさん持っているということです。本を読んだり、ニュースを見たりと日常生活の中にはたくさんの情報があるからです。

最後に、私が勉強するとき一番大切にしていたことは、集中して勉強のできる環境を作ることです。私は家に帰るとダラダラしてしまうことが多かったので、なるべく自習室や図書館などに行きました。

受験勉強はやった分だけ結果で帰ってくると思います。一日一日を大切に頑張ってください。

2021年度入試 合格体験記

生物産業学部 食香粧化学科

片山 千沙綺

(一貫コース・農大三高付属中)

「合格までの道のり」

私が食香粧化学科を選んだ理由は、将来化粧品会社の開発に携わりたいと思い、食品・香り・化粧3つ全て学ぶことができる学科が、農大の食香粧化学科であるため志望しようと決めました。

私は、1・2年のうちにいろいろな大学のオープンキャンパスに参加したり、ボランティア活動に参加するなどたくさんのことを見たり経験したりして、自分の好きなことや学びたいことをあらかじめ知っておくことが大切だと思います。

今年はコロナの影響でオープンキャンパスがオンラインになったり、学校が休校になったりと例年通りにはいきませんでした。休みを利用して化学や数学を1から学び直したり、夏休みには学校の自習室などを利用したりして時間を有効活用しました。私は家よりも学校の方が誘惑されるものが少なく、限られた時間で終わらせなければいけないという環境も作れたので自習室をよく利用していました。勉強するには、自分が集中できる所が1番だと思うので3年生になる前に、自分が1番集中出来るところを探しておくことも大切だと思います。

面接では、質問に対しての答えを難しい言葉ではなく自分の言葉に置き換えて伝えられるように、おおまかな質問と自分の考えを30個ほど作り、空いている時間は必ず見るようにし、学科に合った本を読み知識を増やすようにしました。そうすると、質問に答えられるだけでなく、小論文も書けるようになり、更に自分と向き合うきっかけになりました。

面接練習では、担任の先生や化学の先生、校長先生、親などに面接練習してもらい、深くまでつまれたときの対策を一緒に考えてもらったり、いろいろなパターンの質問をしてもらったりしました。たくさんの人にやってもらいアドバイスをもらうことが、本番での自信に繋がりました。私が合格できたのは、たくさんの先生方や両親にサポートしてもらえたからだだと思います。本当に感謝しています。

最後に今後の人生をいい意味でも悪い意味でも大きく変えるであろう高校3年間を大切に過ごしてください。応援しています！